

一般質問 12人が市政を問う



10 番

服部 秀 洋 議員

最終年度を迎えた「下呂市観光計画」の達成度は

◆観光商工部長

市内の豊富な地域の観光資源を有効に活用し、魅力あるふるさとを創り、多くのお客様を迎え、笑顔のあふれる下呂市を作り上げていくことを目的として観光計画を作成しています。市制10周年を契機に多くの市民にも市内の観光資源を体験していただき、「住んでよし、訪れてよし」の下呂市を再確認していただくために「G」は下呂市のG、「STAY」は滞在するという意味を込めた「GI-STAY」を実施しています。多くの市民が体験することで内需が活性化し、それにより外需観光も同様に活性化し、多くの観光客が訪れると考えています。この「GI-STAY」の結果を検証し第2期計画へと進めます。

危険箇所回避、産業振興のため、幸田地区と湯之島地区北部に架橋を

◆建設部長

連絡橋については、観光振興や防災面から必要性は感じるものの、財政的な面で大変難しい状況

です。今できる事として、下呂大橋の耐震化を新年度から進める計画です。

JR下呂駅バリアフリー化の推進を

◆建設部長

JR駅の整備には市の方針だけでなくJRとの協議・協定に時間を要するので、駅周辺整備と合わせて慎重に検討しなければならぬ課題です。現在、下呂駅では特急列車については上下線とも1番ホームで乗降出来るよう対応しています。

県の「清流の国づくへ」政策に準じた高トシエリアの活用は

◆経営管理部長

県に「飛騨御嶽高原ナショナル高地トレーニングエリア推進協議会」の構成員に加わってもらい、PRや合宿誘致を強力に推進する体制となりました。現在、高山市・県と新年度の事業について協議を進めています。市としては協議会と連携して積極的な合宿誘致活動を展開したいと考えています。



4 番

今井 政 嘉 議員

「健幸」社会の実現にむけて

①高齢になっても健康で元気に暮らせること、それ自体が「社会貢献」である。健幸づくりは「まちづくり」との考えが必要である。現在の取組みはどのような事を行っているのか。また今後の展望は

◆福祉部長

高齢になっても、住み慣れた環境の中で元気で安心して生活するために、健康が第一です。日頃から、病気になるために、生きがいづくり、健康づくりが必要で、たとえ病気になっても早期発見・早期治療で重度化しないようにすることが大切です。そのために、地域包括支援センターでは、介護が必要となる主な原因である、認知症、骨・関節系疾患、脳血管疾患などの防止のために通所型介護予防事業等の介護予防事業を実施しています。高齢者の方が自ら参加していただける仕組みに加え、民生委員・福祉委員・ボランティア等の地域の皆さんのご協力が大きな力となっています。

②歩く事は健康づくりに欠かせないが、歩道・遊歩道の整備は今後

どの様に行うのか。

◆建設部長

歩道整備は、道路改良を実施する場合で歩道の必要性が高い場合や、通学路となっている路線で危険性が高い場合に整備しています。遊歩道や、交通量の少ない道路などを活用し、安心して歩けるルートを設定し、市民にお知らせする方法も考えられると思います。

③健康づくり・まちづくりは、各部横断的に取り組まなければならないと思うが、どう取り組むのか。

◆経営管理部長

交流人口を増やす取り組みも行っていますが、まずは市民の方が自分の街を知り、自分の街を愛して、ふれあいを広げていくことが大切だと思います。市では地域力の強化を進めています。その中で自分の街の資源を見つけ出し、活性化する取り組みをしていただけるよう進めていきます。

④もっと歩きやすいまちづくりを行う事が必要だが、その取組みと現在の街歩き観光の取組みは

◆観光商工部長

多くの来訪者が街歩きをされ散策されることにより、商店街に賑わいを取り戻し、活性化されればという思いで誘客に取り組んでいます。食べ歩きやスタンプラリーなどを実施し、より一層活性化を図っていきたいと考えています。



1 番
田中副武議員
(公明党)

成人用肺炎球菌ワクチンについて

本年10月から水ぼうそう、成人用肺炎球菌ワクチンを定期予防接種に加える事になった。

①下呂市でも実施するのか。

◆健康医療部長

国の制度変更に合わせて、この2種類の定期接種を実施するよう準備を進めています。

②予算の計上と負担割合についての考えは

◆健康医療部長

予算は概算で計上しています。自己負担は、水ぼうそうは無料とする方針で、成人用肺炎球菌は今後検討します。

地域包括ケアシステムの構築について

高齢化が進む中、要介護状態となっても住み慣れた地域で生涯暮らしていくための取組みはどのようなものか、現状を伺う。

◆福祉部長

可能な限り住み慣れた地域で自立した日常生活ができるよう①介護サービスの充実強化、②予防の推進、③医療との連携、④多様な

要求に対する生活支援サービスの確保や権利擁護、⑤高齢者の住まいの5つのサービスを一体化して提供していく「地域包括ケアシステム」の実現に向けて努力しています。

消防団の処遇改善について

消防団を中核とした地域防災力充実強化に関する法律が成立し、消防団の処遇改善が図られる事となりました。これを受けて、下呂市の団員報酬・退職報酬金・出勤手当はどのようにするのか、定員確保の方策について伺う。

◆消防長

団員報酬等の状況は、県下の自治体により様々です。下呂市の状況は決して悪いわけではありませんが、部分的には見直しを図る必要があります。団員確保は人口が減少する中、厳しい状況ですが、自治会等を通じて団員加入促進を図っています。

東京オリンピックに向けた取り組みについて

◆経営管理部長

飛騨御嶽高原ナショナル高地トレーニングエリア推進協議会で、各種競技団体への合宿誘致活動を行っています。JOCとも連携し、合宿時の医・科学分野でのサポート体制を整える計画をしています。



3 番
今井美好議員

平成25年度合理化計画ローリングの結果と平成26年度予算への反映について

◆経営管理部長

「合理化計画」は、総合計画・行政改革実施計画・財政計画の3つの計画を基に、平成31年度以降も安定的な財政運営を継続していくための計画です。毎年度、全ての事務事業について、目的や必要性、費用対効果の検証等、あらゆる角度からの見直しをしています。こうした作業を経た上で、当該年度予算への反映をしています。子どもや孫の世代になったときに、下呂市が財政難で立ち行かなくなってしまうことにならないよう、今出来る事をしっかりとやり、負の財産を残さないことが大切です。具体的には、市債の発行抑制と繰上償還です。平成22年度以降では、4億円以上の繰上償還を実施し、市債残高は3年連続で3億円以上の減額をする事ができました。25年度は、発行抑制等により6億円以上の減額ができる見込みです。さらに、26年度は大規模事業が少ないこともあり、13億円以上の大幅な減額を見込んでいます。

新年度では、各地域に「地域づくり組織等強化促進経費」として、地域の課題に対して地域全体で考えていける組織づくりをめざして活動できる経費を計上しています。このため、各振興事務所に、地域づくりを支援する「地域力向上支援員」を配置します。また、新たな取り組みとして、人口減少や高齢化が進行する地域で、意欲ある都市在住の若者等を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域力の維持や強化に繋げ「地域協力活動」に取り組み、地域資源の活用や地域の皆さんとの協働を通じて地域の活性化を図っていくため、「地域おこし協力隊」を開始します。26年度には、馬瀬地域、小坂地域、上原地域を計画しています。

◆市長

26年度から始まる交付税の段階削減に関しましては、東海市長会や全国市長会、また下呂市をはじめ300を超える合併市が参加した「合併算定終了に伴う財政対策連絡協議会」を通して国及び国会議員に要望活動を行っています。

